

『自然と人びとが幸せに暮らすまち』



おおだい

合併10周年
特別号

広報

平成28年(2016年)No.121



Contents [目次]

- 町長、議長あいさつ…………… P. 2～3
- 大台町の概要…………… P. 4～5
- 写真で振り返る大台町の10年…… P. 6～10
- 大台町へのメッセージ…………… P. 11～13
- 大台町演舞曲おおきん大台…………… P. 14～15

～合併10周年特別号の発行にあたって～

旧大台町と旧宮川村の合併も、早いもので10年が経ちました。その間、町の広報紙として月々の情報を皆さまにお知らせしてきました。このたび大台町合併10周年を記念して、これまでお届けしてきた情報を凝縮し「合併10周年特別号」として発行いたします。これからも皆さまにご愛読いただける広報紙づくりに精一杯、努めて参りますので、どうぞよろしくお願いたします。

10年を振り返って

大台町長 尾上武義



平成18年1月10日に旧大台町と旧宮川村が合併し、新大台町が誕生しました。新たな時代の一步を踏み出してから、このたび10周年を迎えました。記念すべきこの節目を迎えることができたのは、ひとえに町政運営に深いご理解とご協力をいただいています町民の皆様をはじめ、関係各位のご支援の賜物であると感じ、より感謝を申し上げます。



さて、この10年を振り返ってみますと、まず最初に町民の皆様113名に参画いただき町政運営の指針となる総合計画の策定に取り組み、平成19年6月に「自然と人びとが幸せに暮らすまち」を町の将来像に掲げた第1次大台町総合計画を策定いたしました。この計画に基づき、町の

一体感の醸成と各地域の特色を活かしたまちづくりを進めてまいりました。

合併当初は課題が山積していましたが、まずは旧町村の交通の利便性など地域間格差の解消に率先して取り組みました。

その他、この10年間の主な事業では、美しい森林を守り「清流日本一の宮川」を保全するため、環境省の認証を受けたJ・V・E・R制度によるオフセット・クレジットの販売収益を活用して森林整備を進めるとともに、積年の課題でありました大台地域の簡易水道を統合整備し、安全で安定した水道水の供給に取り組みました。

紀勢自動車



道が県南部へ延伸することにより、町が単なる通過点となり入込客が減少してしまうことに対応するため、大紀町と連携して第3セクターによる会社を設立し、奥伊勢PAの営業施設の運営に参画いたしました。現在では高速道路利用者を県南部地域へ誘導する情報発信施設としての役割を果たしています。



平成27年4月に報徳診療所に介護老人保健施設みやがわ、そして大台厚生新病院がオープンいたしました。

大台厚生病院との連携・再編による報徳病院の診療所化と介護老人保健施設併設の宮川メディカルセンター構想には、1600人余りの皆様の再検討を求める署名があり、地域の意見として重く受け止めました。しかし、高齢化が進む宮川地域の将来的な医療体制を確保するには、医療と介護を確保していくことが必要であり、宮川メディカルセンター構想の実行を決断いたしました。この構想は、将来の町民の皆様の安心・安全を確保するための最善の施策であると確信しております。

昭和24年に開校した協和中学校が、平成27年3月をもって閉校となり、大台中学校へ統合いたしました。協和中学校の統合については30年ほど前から進めてまいりましたが、地元からの存続を希望する声が強く、これまで統合には至りませんでした。しかし近年の少子化による生徒数の減少等により、統合への理解をいた

だき、子供たちは新しい中学校で、より多くの生徒と新たな一步を踏み出しました。

本町は急峻な山々に囲まれており、豪雨による土砂災害の発生が危惧されます。平成23年9月には台風12号の豪雨により岩井地内の持山谷で土石流が発生し、下流の橋梁が落橋、民家1棟が倒壊するなどの被害をもたらしました。年間を通じて雨量の多い地域であり、特に防災対策には全力で取り組んできたところで、宮川に堆積した土砂の撤去、防災行政無線の戸別受信機の全戸設置、ハザードマップの作成、防災訓練など、町民の皆さんや関係機関と連携して安全・安心なまちづくりを進めてまいりました。



そのほかにも三瀬谷小学校体育館・日進公民館の整備などのハード事業に取り組むとともに、地域の活性化と集落対策を図るため、空き家バンク制度を創設し、集落の活力と移住・定住につなげるなどのソフト事業も進めてまいりました。子育て環境では、三瀬谷地区統合保育園

の整備を始め、
県下で一番安い
保育料の継続と
出産祝い金の拡
充やこども医療
費の中学校卒業
までの無料化、
さらに早朝及び
延長保育・0歳
児保育・一時保
育などの保育サー
ビスや子育て支援
センター・学童保
育の充実など、子
育てにやさしいま
ちづくりを進めて
まいりました。また、平成16年の豪
雨災害以降一部開
通となっていた大
杉谷登山道が平成
26年4月に全線開
通し多くの登山者
が訪れるようにな
りました。さらに
平成28年3月には
町全域が大台ヶ原
・大峯山・大杉谷
ユネスコエコパーク
として拡張登録
される予定で、国
内外から観光客が
訪れることにも期
待しているところ
です。



そして、もう一つ
私が感動した出来
事がありました。そ
れは昨年の11月
8日に開催しまし
た「どんとこい大
台まつり」で、合
併10周年を迎え
るに当たって町の
一体感の醸成につ
なげることを目的
に制作した町の演
舞曲と踊り「おお
きん大台」を披露
したことです。当
日はあいにくの雨

で予定していた総
勢500人余りの皆
さんと踊っていた
けど、雨の中、ト
は中止となりました
が、雨の中、踊り
手の皆さん約100
人で踊っていただ
けで、今でも鮮明
に覚えており、練
習から当日まで
踊りを通して大台
町民が一つにな
れたと本当に感動
をいたしました。

今後は、新たな伝
統として後世に
伝承していくと
ともに一体感の
醸成と郷土愛を
育むことにもつ
なげていきたい
と考えています。
「おおきん大台」
の歌詞の最後に
「それ揃って
踊ろやな それ
踊れば 日が昇
る」のフレーズが
ありますが、今
後も町民の皆さ
んと行政が揃っ
て総力を挙げて
、町が将来にわた
って輝き続ける
よう取り組んで
いく所存です。
大台町は、この
10年間一歩一歩
確実にまちづく
りを進めてまい
りました。記念す
べき節目である
とともに新たな
一歩を踏み出す
年でもあります
。これまでの10
年間の歩みをし
っかりと踏まえ
つつ、「住んで良
かつた、ずっと
住み続けたいと
、だれもが想
えるまち」の実
現のため全力で
取り組んで参り
たいと考えてお
ります。最後に
なりませんが、
大台町のさらな
る発展のため、
町民の皆様はじ
め関係各位のさ
らなるご支援ご
協力を賜ります
ことをお願い申
上げます。

地方創生に向けて

大台町議会議長 中西康雄



大台町は、平成
18年1月、旧宮
川村と旧大台町
が合併して、本
年は記念すべき
10周年を迎え
られること、皆
様とともにお慶
び申し上げます
。

今日まで大台町
発展のため色々
とご尽力いただき
ました先人の皆
様方、住民の皆
様方に深く敬意
と感謝を申し
上げます。

大台町は、尾上
町長を中心に町
民の皆様との参
画と協働のもと
、積極的なまち
づくりを推進し
、私たち議会
も、これらに関
連する議案や予
算の審議を行な
うことにより、
まちづくりに参
画できたことを
誇りに思ってお
ります。

新町としての速
やかな一体化を
促進するととも
に、両町村の有
する豊かな地域
資源を活かした
生活に密着する
基盤整備の充実
をはじめ、暮ら
しを明日につな
ぐまちづくりに
向けた諸課題の
解決のため、毎
年100件の超
える議案の審議
のほか、常任委
員会の調査・研
究活動、また、
必要に応じて
県水力発電事業
の民間譲渡

による影響調査
特別委員会、地
域医療対策特別
委員会、また、
議会改革特別
委員会などを設
置し、町の重要
課題の審議や議
会改革の検討を
行なうてまいり
ました。

平成の大合併に
よって、地方自
治体の規模は大
きくなりました
が、人口減少と
高齢化は依然と
して進んでお
り、国はそれら
の解決策として
、「まち・ひと・
しごと創生本部」
を設置して、過
疎化や少子高齢
化、加えて地場
産業等の発展の
取り組みを
はじめました。

議会としまし
ても、町が策定
した「大台町ま
ち・ひと・しご
と創生総合戦略」
の各施策につ
いて、継続的に
検討を加え、予
算や決算の際
には、しっかりと
した判定と評価
を
してまいります
。

また、今ま
でに議会基本条
例、議会議員政
治倫理条例等を
制定し、開かれ
た議会を
目指して議会改
革に取
り組んでまいり
ましたが、更なる
地方分権時代
に対応するべく
研さん
つとめてまい
ります。

結びになり
ますが、これまで
温かいご理解と
ご協力を賜り
ました町民の
皆様、関係各位
に深甚なる感謝
の意を表し、大
台町の一層の発
展と皆様のご健
勝、ご多幸をお
祈りいたしま
してご挨拶とさ
せていただきます
。

の概要



男性
4,658人



女性
5,163人

人口(合計) 9,821人



世帯数 4,182世帯

(平成27年12月末日現在)

位置 北緯34度23分35.9秒

東経136度24分28.5秒

面積 362.86km²

大台町は大台ヶ原を源とする清流日本一の宮川が町の中央を東に流れ、源流部は国立公園、居住部は県立自然公園に指定される自然豊かな町です。平成28年3月には、町内全域が大台ヶ原・大峯山・大杉谷ユネスコエコパークのエリアとして拡張登録される予定です。古くは伊勢神宮への御用材の奉獻、熊野古道や伊勢国司北畠氏史跡といった歴史や文化遺産も有しています。



紀勢自動車道大宮大台IC開通で交通の利便性も高まり、山・川での観光事業や道の駅奥伊勢おおだいを拠点とする農産物の流通など、地域資源を活用した経済の活性化に取り組んでいます。また、空き家バンク制度による移住定住の促進、宮川メディカルセンター整備による医療と介護の確保、さらには結婚・出産・子育てしやすい環境づくりなど「住んで良かった」「ずっと住み続けたい」とだれもが想えるまちを目指しています。

イメージキャラクター「宮坊・チャミー」

旧大台町と旧宮川村で使用していたイメージキャラクターは、公募して決定したキャラクターであり、多くの皆さまに親しまれてきたことから、「宮坊」と「チャミー」を大台町のイメージキャラクターとして使用しています。二人は兄妹となり、仲良く大台町のPRに励んでいます。

旧大台町で活躍していた「チャミー」は、生産が盛んなお茶をPRするため、頭は茶の実の形をし、茶葉ものびのびと生えています。また、旧宮川村で活躍していた「宮坊」は、帽子に水質日本一の清流宮川を描くなど、大自然をイメージ・PRしています。



町章



大台山系の山懐に抱かれる姿を、大台町の頭文字「O」と「台」に重ね合わせてグリーンで、中央から流れるブルーで清流宮川をイメージし、自然豊かなまちを表現。白のラインで人や情報を表し、大台町の将来像である「自然と人びとが幸せに暮らすまち」を象徴するデザインとなっています。

町の花・木・鳥



町の花：ホンシャクナゲ

常緑・低木で、春から初夏にかけて紅紫色や白色の花を咲かせるホンシャクナゲは、色や形に気品があり深山に鮮やかさをもたらす魅力的な花です。最近では各家庭や道路周辺、公園などで植栽され、大台町を彩っています。また、旧宮川村地域で育てられた苗木が旧大台町地域で植栽されるなど、ホンシャクナゲを育てる活動の輪が広がってきていることから、大台町の花となりました。



町の木：アラカシ

アラカシは、樹勢が盛んで風雨寒暑に耐え、樹勢直立、高木で、質実剛健な風格があり、年とともにその価値を高める木です。また、アラカシのドングリは広く里山に見られ、子ども・大人を問わず町内でも広く親しまれています。アラカシはブナ科の常緑広葉樹であり、清流宮川の水を育み里山に暮らす人々を温かく見守る象徴と言えることから、大台町の木となりました。



町の鳥：ヤマガラ

好奇心旺盛といわれるヤマガラは、おみくじを引くなど芸を覚える賢い鳥として、また容姿も美しく人馴れしやすいため、古くから住民に愛されています。山地から平地の森林に生息し、鳴き声が美しく家々の庭木にもよく飛来して人々を癒す様は、まさに自然と人びとが幸せに暮らすまち大台町にふさわしいことから大台町の鳥となりました。

大台町・宮川村の合併協議の経緯

平成16年	11月 1日 大台町・宮川村合併協議会を設置 (平成16年11月22日～平成17年11月22日 全13回開催) 12月 5日～1月7日 新町の名称を公募
平成17年	2月15日 1月に開催された第3回新町名称候補選定小委員会で有効件数749件の中から5点(大台町、大台宮川町、清流町、美川町、宮川町)を選定し、第7回合併協議会で「大台町」に決定。 2月25日～28日 両町村合計7地区で合併説明会を開催 3月15日 大台町・宮川村合併協定調印式を開催 3月23日 大台町・宮川村議会で合併関連議案が可決 6月 6日～7月8日 新町の町章を公募 6月27日 三重県議会において合併関連議案が可決され三重県知事が決定 8月30日 第10回合併協議会にて町章決定 12月18日 大台町閉町式典 12月23日 宮川村閉村記念式典
平成18年	1月10日 新「大台町」誕生。開庁式を挙行。

平成 18 年 (2006)



【1月:大台町開庁】



【2月:町長初登庁】



【3月:大宮大台IC開通】



【11月:第1回どんとこい大台まつり】



写真で振り返る 大台町の10年

【広報おおい創刊号(2月号表紙)】

- 1月 大台町と宮川村が合併し、新たな大台町が誕生。
- 2月 町長選挙で当選した尾上武義氏が初登庁。
- 3月 紀勢自動車道大宮大台ICが開通。
- 11月 第1回どんとこい大台まつりが開催され、およそ5000人が来場。
- 12月 平成9年4月から旧宮川村が東員町と結んでいた提携を引き継ぎ締結。



【12月:東員町と友好親善提携締結】

平成 19 年 (2007)



【1月:宮川福祉センター竣工】



【6月:第1次大台町総合計画策定】





【8月:帰ってきた夏まつり】

- 1月 江馬地内に地域の福祉施策を推進する拠点施設として宮川福祉センターを整備。
- 6月 前年に実施した町民対象のまちづくりアンケートの結果や、町民113名が参画したまちづくり分科会での議論から、町民の想いと願いを織り交ぜて総合計画を策定。
メインテーマ「自然と人びとが幸せに暮らすまち」
サブテーマ「住んで良かった」「ずっと住み続けたい」とだれもが想えるまち
- 8月 大台町商工会が主催し、翌年から千客万来夏まつりとして毎年開催。
- 10月 第1回は5つのステージを設けて開催。現在は芸能と展示の二部門で開催しています。



【10月:大台町生涯学習フェスティバル開始】



平成20年(2008)



【11月:大台町の花・木・鳥が決定】



【12月:デマンドタクシー本運行開始】

- 11月 選定委員会で決定。どんとこい大台まつりで発表されました。
- 12月 公共交通空白地域の利便性を高めるため、4路線でデマンドタクシーの運行を開始。

平成21年(2009)



【2月:奥伊勢パーキングエリアオープン】



【3月:三瀬谷保育園竣工】

- 2月 紀勢自動車道の勢和多気IC~大宮大台IC間(高奈地内)の上下線に整備。
- 3月 三瀬谷北・南保育所の老朽化等に伴い、川合地内に三瀬谷保育園を建設。木造平屋建て、園児定員150人。





【4月:戸別受信機の全戸設置】



【6月:三瀬谷小学校体育館・プール竣工】

- 4月 戸別受信機を貸与し、災害時の緊急通報や日ごろの行政案内など、情報体制を整備。
- 6月 体育館は町産の木材を使用した鉄筋木造混構造。プールの水は災害時にろ過し飲料水として使用可。

平成22年(2010)



【4月:熊野古道伊勢路「馬鹿曲橋」を再現】



【9月:オフセット・クレジット販売開始】



【10月:宮坊・チャミーの着ぐるみ登場】

- 4月 地元の名所を活用して地域活性化を図るため、ふるさと案内人の会と神瀬区の協力により完成。
- 9月 オフセット・クレジット(J-VER)制度を活用し、森林が吸収する二酸化炭素の量を、その排出削減に取り組む企業等に販売。収益を自然環境の整備保全等に活用しています。
- 10月 マスコットキャラクター宮坊・チャミーの着ぐるみが完成。町内外の様々な場所で大台町をPRしています。

平成23年(2011)



【3月8日進公民館オープン】



【10月:女性消防分団発足】

- 3月 昭和50年に開館した旧公民館を地元産の木材を使用して建て替え。交流・学習の場として利用されています。
- 9月 岩井地内の持山谷川で土石流が発生し持山橋(70m)が決壊。対岸の民家などに甚大な被害が発生しました。



【9月:台風12号による持山橋決壊】



- 10月 一人暮らし高齢者宅への防火訪問、イベント等での防災や防火啓発を実施。この他、救命救急及び応急手当の訓練等を行っています。